

ふるさとから学び，未来を拓く勤労生産体験活動

香川県大野原町立大野原中学校

学校の概要

学校規模

学級数：12学級

生徒数：418人

教職員数：27人

体験活動の観点からみた学校環境

本町は人口約1万3千人の農業が盛んな町で、稲作やレタス、タマネギなどの野菜栽培が盛んである。

町内に大きな農協を有し、農業に熱心な地域であることから、農協や地域の協力をいただいている。

最近では工業誘致が進み、調和のとれた産業・経済の発展が図られ、専業農家が減り、兼業農家が増加しつつある。そのため、生徒の農作業体験が少なくなっている。

連絡先

〒769-1612

香川県三豊郡大野原町大字中姫

1189番地3

電話：0875-54-3100

FAX：0875-54-3101

電子メール：daichu@nji.or.jp

体験活動の概要

活動のねらい

豊かな感性を育てるとともに、たくましく人間味あふれる生徒の育成を目指す。

勤労生産体験活動を通して、自ら考え、協力し、主体的に取り組む態度を育てるとともに、正しい勤労観の確立を図る。

生徒相互、生徒と教師との人間関係を密にし、望ましい学級集団づくりをする。

主な活動内容・方法（位置付け・期間等）

1年生：タマネギ・水稲・レタス栽培
（総合的な学習の時間20時間・ゆとり5時間）

2年生：タマネギ・水稲栽培
（総合的な学習の時間5時間・ゆとり5時間）

3年生：菊栽培
（総合的な学習の時間5時間・ゆとり5時間）

活動の実習地：学校田（25a）

活動の期間：年間を通して行う。

体制等の工夫

校内体制：生徒会活動に勤労生産委員会を設置

校外体制：農協・農家・ハーベストタイムアドバイザーとの連携

活動の成果等

自然に対する慈しみや愛着が深まった。

粘り強さや連帯感が高まった。

人間関係に深まりができた。

勤労生産体験活動以外の活動や学習にも意欲的になった。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

「勤労により作物を生産するとともに、心にたくましさや思いやりをはぐくむ」

ア 自然とのふれあいを通して豊かな感性を育てるとともに、働く喜びを他の学習や生活に転移させ、たくましく人間味あふれる生徒の育成を目指す。

イ 勤労生産体験活動を通して、自ら考え、協力し、主体的に取り組む態度を育てるとともに、勤労の尊さや生産の難しさ、喜びを体得させることによって、正しい勤労観の確立を図る。

ウ 勤労生産体験活動を通して、生徒相互や生徒と教師との人間関係を密にし、望ましい学級集団づくりをする。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「ハーベストタイム」

イ 実施学年

全学年

ウ 活動内容 農作物の栽培活動

1年生：タマネギ、水稲、レタス、サツマイモ、サトイモ、ネギ栽培

2年生：タマネギ、水稲、サツマイモ栽培

3年生：大菊・懸崖栽培

エ 教育課程上の位置付け、実施時期、実施期間（日数や時間数）

年間を通して、農作物の勤労生産体験活動を総合的な学習の時間及びゆとりの時間に位置付けている。また、事前、事後指導として道徳、特別活動と関連を図っている。

1年生：総合的な学習の時間（20時間）＋ゆとり（5時間）＝総時間（25時間）

2・3年生：総合的な学習の時間（5時間）＋ゆとり（5時間）＝総時間（10時間）

オ 活動場所

学校田（休耕田の借用） 25a

カ 継続の状況等

本校では、昭和61年、62年度に「勤労生産学習研究推進校」として文部省指定を受けて以来、農作物の勤労生産体験活動を学校教育の中核に置き、心にたくましさや思いやりをもつ生徒の育成を目指して実践してきた。活動内容としては、1・2年生は水稲、タマネギの植え付けと収穫体験を、また3年生は菊の栽培を行ってきた。

平成12年度より総合的な学習の時間に組み入れ、栽培する農作物の決定も含めて学年団において取り組んでいる。平成14年度も総合的な学習の時間に位置付け、平成13年度の実践を工夫・改善をしながら継続していく。

2 活動の実際

(1) 事前指導

ア 勤労生産体験活動の年間計画

月	1・2年生の活動	3年生の活動	指導の重点
4	除草作業	菊の選定 (大菊・懸崖) 菊栽培の事前指導 菊の鉢植え 摘心 菊の支柱立て 菊の開花準備 菊の整姿 菊の片付け	勤労生産活動の意義・目的
5	タマネギ収穫		タマネギの収穫・菊栽培の手順
6	田植え・夏野菜植え付け (サニーレタス)		野菜・菊の栽培計画・係の分担
7 8	(里芋, サツマイモ) あぜ草取り		水やり・菊の支柱立ての手順
9	秋冬野菜植え付け (ネギ, 大根)		肥料のやり方
10	稲刈り		収穫の事前・事後指導
11	タマネギ植え付け		タマネギの植え付け方の手順
12			休み中の作物管理
1 2 3	除草作業		除草作業の仕方

イ 他教科及び活動との関連

勤労生産体験活動をする際に、事前に勤労の尊さを主題とした道徳の授業を行うことにより、勤労の価値の自覚を促し、生徒の主体的な活動が一層充実するように配慮している。また、協力的・能率的な活動ができるように、学級活動で事前指導を行っている。

(2) 活動の展開(1・2年の例)

ア 春から秋への活動(水稻作り)

地域には農家が多いが、生徒は田植えや稲刈りを経験した者は少なく、それについての事前指導を十分にすることがある。そのために、それぞれの活動指導マニュアルを作成し、活用している。田植え、稲刈り、雑草引きは体験活動として生徒が常時行っているが、危険の伴う病害虫の駆除や水管理は教師が援助している。

(ア) 事前指導

初めて体験する1年生に配慮して、全校集会で、勤労生産委員の生徒が作業手順や方法を説明した。実演を交えて、具体的に田植え用の服装や要領を適切に説明したので、1年生にとって効果的であった。

学年団集会で、昔の田植えの仕方や田植えの意義について校長が講話を行った。地域の人に教えてもらった「田植えの歌」の紹介もあり、生徒の意欲付けになった。

(イ) 活動の展開

田植え体験

総合的な学習の時間1時間とゆとり1時間を活用して、1・2年生が田植え体験を行った。学校田を2つに分け、勤労生産委員が苗をばらまき、その後みんなで決められた場所に植えていった。2名の教師が端と端でロープを張り、一斉に植えていった。

稲刈り体験

農協より借用のコンバインを利用した稲刈り

- 田植えマニュアル(例)
- 1 一人が三株植える。
 - 2 足跡を多く残さない。
 - 3 一株に3, 4本植える。
 - 4 根元を持って植える。
 - 5 浅植えをし、浮き苗は植え直す。
 - 6 ロープの向こう側に植える。
 - 7 足跡などの深い所は土を寄せて植える。

のため、生徒はコンバインで刈れない端を鎌で刈り取る作業をした。そして、生徒の刈り取った稲は、乾かすために干していった。



田植え



稲刈り

(ウ) 収穫米の活用方法

収穫した米は、全校生が食するだけでなく、収穫を祝う祭り(ラブ・ジ・アース)の折りに、保護者の協力を得て、おにぎりとして、地域の人にも配った。

イ 初冬から春にかけての活動(タマネギ作り)

タマネギの栽培で生徒の手によるものは、苗の植え付け、除草、収穫の3つの作業であり、病害虫駆除は教師が援助している。タマネギは10aに3万本の苗が必要で、本校では約8万本の苗を育て、栽培している。収穫量については、年によって多少は違うが、平成13年度は20kg入りのキャリアに約800箱の収穫があった。

(ア) 事前指導

収穫前に学年で道徳の授業

「玉ねぎの収穫」の実践を行った。この授業は勤労の尊さについての価値の自覚を促すとともに、意欲的に体験活動に参加する姿勢を育てることを目的とした。【生徒の感想】

- ・ 「・・・してよかった」という気持ちを私も持つようにしたい。
- ・ 僕もこれから手伝いをきちんとしたい。
- ・ 全員ですることに意味があるということが分かった。

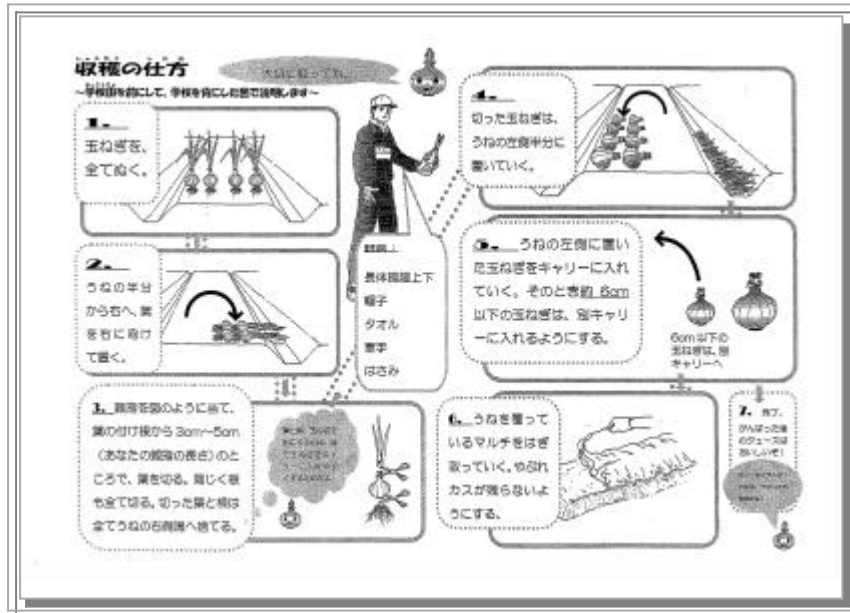
【道徳学習指導案】

玉ねぎの収穫

学習指導過程

	学習活動	中心発問と予想される生徒の反応	教師の支援
導入	1. 家での農作業等の手伝いの様子や感想を聞く。	- 農作業を終えて帰って来ているのに、怖いなあ。私なら文句を言うのになあ。 - せっかくの連休なのに、家族で掛かたり、友だちと遊んだりしたくはないのなあ。 - 意外と手伝いをしている人は多いなあ。 - ぼくの家が農家だったらいいなあ。	- 日頃の生活記録から、休日の手伝いの様子を紹介する。
展開	2. 主人公の気持ちを表すことばに線を引き。	私と妹は朝での手伝いをどう思っているか。 - ああめんどくさい。 - なんで私がしなくてはならないのだろう。 - えらいし暑いし汚れるし、玉ねぎのにおいがつくし、いやな作業だなあ。 - せっかくの日曜日に何でうちだけ?	- 主人公の気持ちを表すことばを抜き出し、文句を言ったり、まじめに作業したりしない様子に共感するようにする。
展開	3. 主人公の気持ちの裏面をとらえる。 祖父母のことばを抜き出す。	私の心はどう変わっていくのだろう。またどうしてか。 - 祖父母は休みもせず朝々と作業を続けている。 - 祖父母のうれしそうなお顔を見るとなんだか、うれしくなってきた。 - 遊んでいた自分がはずかしくなってきた。	- 祖父母の黙々と作業する様子やことばから、家族の一員としての自覚に目覚める様子をとらえる。 「みんなが手伝ってくれるからもうこんなに来てた」「新しい道がこんなに大きくなってありがたいことじゃ。」 - 祖父母の考え方や優しさに気づくようにする。
終末	4. 「光る玉でいっぱい」とは、どんな気持ちかをまとめる。	道を通る人が自分たちをどう思っていると思ったのか。 - 農作業がはずかしい、かっこわるい。 - 哀だちに見られたらどうしよう。 - 私たちを笑っているのではなく、家族みんなで作業していることをほほえましく思っていることに気づいた。 - 目をもってやれば誇りをもてる。さすがに好きおやかな気持ちになった。 - みんなで力を合わせると気持ちがいいなあ。 - 手伝ってよかったなあ。	- 自分自身がカッコ悪いと思っていると、周りの人まで笑っているように感じてしまうことに気づくようにする。 - 近所の人と祖父母の会話から、家族の協力の大切さとその喜びを、読みとるようにする。

タマネギ収穫マニュアル



タマネギを収穫する生徒



(イ) 活動の展開

タマネギ収穫体験

総合的な学習の時間1時間とゆとり1時間を活用して、1・2年生がタマネギ収穫体験をした。短時間で収穫できるように、クラス別に分かれるなど、工夫して実施している。収穫したタマネギは、生徒の調理実習で活用したり、ラブ・ジ・アースで保護者に配ったりしている。また、給食センターや老人ホームへ寄贈するとともに、生徒へ分配した後、農協を通じて出荷している。出荷に際しては、キャリーの借り受け、タマネギの搬送等に地元の農協や農家の人の援助・協力を得ている。

タマネギの苗の植え付け体験

植え付けの2ヶ月前（9月中旬）に、苗床を作り、10月初めに生徒の手によって種まき・水かけしながら丹精こめて、苗を育てた。そして、11月下旬に成長した苗を「総合的な学習の時間」1時間とゆとり1時間を活用して、1・2年生で植え付けを行った。植え付け前日に、苗床より苗を勤労生産委員が引いておき、殺菌処理しておく。

タマネギの植え付け



当日、各組で事前に苗を運んでおき、一斉に植え付けを始める。各組の分担を決めているため、短時間で植え付けが終了できる。

(3) 事後指導

勤労生産体験活動で生徒が疑問を感じたことを、「総合的な学習の時間」の課題として取り上げ、農協施設等で調べ学習を行い解決していった。その際、「ハーベストタイムアドバイザー」（後述）を活用したり、農協の職員に指導を受けたりして、専門的な知識や技術が習得できた。また、調べ学習の記録や勤労生産体験学習の活動をまとめて、学年団で11月（中間発表）と2月（まとめ）に保護者にも公開する発表会を開催した。

3 体験活動のための体制

(1) 学校と農協・人材バンクとの連携（校外体制）

調べ学習や勤労生産体験活動での専門的な内容については、農協の職員や本校のPTAから募集した人材バンク（「ハーベストタイムアドバイザー」：本年度登録10名）等を活用し、営農担当者から作物の栽培管理（土作り，苗の植え方，予防の仕方，肥料のやり方等）の指導を受けたり，育苗センター訪問や農協施設見学をしたりしている。また，人材バンクに登録された農家の人からの農業体験談を聞く機会を設けたり，学校近くの農家に学校田の協力依頼（水田への引水，技術指導，耕運機借用等）をしたりするなどの連携を図っている。

(2) 生徒会活動に勤労生産委員会を設置（校内体制）

ア 各学級に男女1名ずつ配置し，勤労生産体験活動での準備や後片付け等を担当する。

イ 月1回の委員会活動での学級田の除草作業や，定期的な作業用具の点検をする。

ウ 勤労生産体験学習に対する全校生への意欲付けを図る活動を展開する。

(3) その他

勤労生産体験活動の経費については，前年度までの米・タマネギの出荷による収益等を活用している。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 生徒の変容

自分たちで作った作物や栽培植物への愛着心が強まり，自然に対する慈しみや感謝の気持ちが芽生え，施設・校具などを大切にできるようになった。

粘り強さや連帯感が高まった。

勤労生産体験活動以外の活動や学習にも意欲的になった。

イ 教師の変容

勤労生産体験活動の内容・活動等が「総合的な学習の時間」と密接な関連があるため，総合的な学習の時間の学習内容が充実したものになり，教師もより勤労生産体験活動に意欲的に取り組めるようになった。

ウ 保護者・地域の変容

地域に根ざした学習活動として評価され，学校教育への理解と協力が深まった。

教師と保護者，保護者と生徒の共通の話題が増え，人間関係の改善につながっている。

PTAによる人材バンク作り等の協力体制が整いつつある。

【生徒の感想より】

・ みんなが力を合わせて頑張ることの大切さが分かった。

・ 稲刈りをして，昔の人の苦労が分かった。

・ 一つのことについて，みんなで調べるから新しい発見があっておもしろかった。

・ いろいろな課題をみんなや班で解決し，学習の意欲が高まった。ハーベストタイムをするとどんどん疑問が湧いてくる。

(2) 課題

ア 体験活動に適した道德の時間の充実をどう図っていくか。（道德的実践力の育成）

イ 地域の人材の掘り起こしや諸施設・団体との連携をどう広げていくか。

5 今後の取組の方向

- ・ 次年度に向けての改善の方向

勤労生産体験活動は「総合的な活動の時間」の中に位置付け，平成14年度も継続していくことにしている。その際，水稻・タマネギについては1・2年生を中心に，総合的な学習の時

間と勤労生産体験活動との融合を図りながら、充実させていくことにしている。

【本事例活用に当たっての留意点】

生徒が体験活動を通して学習する際に意欲的に取り組める条件の一つは、その活動に自分と向き合う場面や他者と交流する場面が用意されていることである。本事例においては、事前に勤労の尊さを主題にした道徳を実施したり、上級生が1年生に実演を交えて田植えを説明したり、共同して作業をしたりすることによって、生徒は連帯感をもって意欲的に取り組むことができた。

このような取り組みを確実に行うためには、学習指導の要点を明確にすること、効果的な学習場面を用意すること、生徒会をはじめとする校内体制と農協職員など関係者を組織した校外体制とを確立することが大切である。